

## 中大連携による社会科授業の研究

西浦 諒（和歌山市立紀伊中学校教諭）

赤松 薫（和歌山市立明和中学校教諭）

和田 龍也（和歌山大学教育学部附属中学校教諭）

辻 愛香（和歌山市立有功中学校教諭）

山口 康平（和歌山大学教育学部附属中学校教諭）

三品 英憲（和歌山大学教育学部教授）

### はじめに

本共同研究事業は、2023 年度の研究課題「課題発見力・探求力を育む歴史授業の研究」を遂行するなかで築かれた三者連携（公立中学校・教育学部附属中学校・和歌山大学教育学部）の枠組を生かし、引き続いて課題発見的・探究的な中学校社会科歴史的分野の授業方法を研究することを目的として開始された。ここではその活動の経緯を概観するとともに、具体的な成果と今後の課題について説明する。

### I. 本共同研究事業の目的と経緯

本共同研究事業は、2024 年 4 月 24 日（水）に開かれた和歌山市中学校社会科教育研究会（以下、市中社）の第 2 回授業交流会（明和中学校）の終了後に、今年度の共同研究事業について相談したことに始まる。その結果、2023 年度に引き続き、附属中学校・公立中学校・大学の三者連携で授業研究を行うことで合意した。そのうえで、市中社が、2024 年度の教科別等研修会の研究授業の担当者を西浦 諒教諭（初任者）に決定したことを受けて、本共同研究事業としては、西浦教諭の研究授業への準備を助言・支援することを具体的な活動内容とすることに決定した。あわせて、本報告書の執筆者 6 名を本共同研究事業のコア・メンバーとすることを決定した（共同研究者については一般公募も行ったが、応募者がいなかったため最終的にこの 6 名で確定した）。

また、今回の共同研究事業では広く大学生にも参加を呼びかけ、歴史学ゼミの 2～4 回生を主たる対象として、教員就職を志望している学生に授業づくりの「舞台裏」を観察させるとともに、現職の教員たちとの交流を通して「学びつづける教師」への意識の涵養に役立てることにした。大学生は、後述する教科別等研修会の準備会合（検討会）のほか、和歌山県中学校社会科研究会の主宰する交流会（4 月 30 日、6 月 27 日、7 月 26 日）や、市中社の主宰する交流会（6 月 12 日）にも毎回 2～6 名が参加して、議論に参加した。

教科別等研修会にむけた準備としては、10 月 9 日（水）、10 月 22 日（火）、11 月 7 日（木）に、いずれも西浦教諭が勤務する紀伊中学校で打ち合わせが行われた。このうち、10 月 9 日の会では西浦教諭より、研究授業では歴史的分野のうち「長篠合戦図屏風」を用いた織田信長の統一事業について取り上げたいという意向と、草案としての指導案（以下、指導案①）なお紙数の関係上、指導案①の提示は省略する）が示された。その後、10 月 22 日・11 月 7 日の打ち合わせを経て指導案が練り上げられ、11 月 13 日に研究授業が実施された（研究授業で使用した指導案を指導案②とする。本レポート末尾に資料①として添付）。

授業後には協議会が行われ、赤松教諭が司会を、三品が指導助言を担当した。さらに 11

月 18 日（月）にはコア・メンバーによる今回の研究授業についての振り返りが行われ、到達点と反省点を確認した。

## Ⅱ．研究授業（2024 年 11 月 13 日）に向けた取り組みと成果

上述したとおり、本共同研究事業は、11 月 13 日に紀伊中学校で西浦教諭が行う研究授業の準備過程に積極的に関わることを具体的な活動とした。ここでは主に西浦教諭の指導案が協議を経てどのように変化したのかを記す。

10 月 9 日の第 1 回検討会で西浦教諭が示した指導案①は、織田信長の統一事業を扱うものであった。この指導案では、織田信長の統一事業について学習したのち、宗教改革や大航海時代、ルネサンスを学習するというように逆順に授業を展開する形で単元を構想していた。これは、小学校では人物学習を中心に歴史を学習しているということから、織田信長についての内容は歴史学習への入り口として最適であると考えたからである。また生徒が世界史にはあまり触れてきていないということから、比較的身近な日本の歴史から学習すると思わしやすいのではないかと考えたこともその理由であった。これらから、単元の最初の授業として織田信長の統一事業を研究授業として取り上げようとした。これに対し参加者からは、教科書は織田信長の経済力に注目させようとしていること、鉄砲の伝来は日本社会を中世から近世へと転換させる大きな契機となったこと、すなわち日本社会における中世と近世の相違を理解した上で本単元（と本時授業）を位置づける必要があることなどが提起された。

その後、10 月 22 日に第 2 回検討会、11 月 7 日に第 3 回検討会が開かれ、西浦教諭はそれぞれの検討会での議論と助言を基に指導案とワークシートを修正していった。この間、赤松教諭と和田教諭からは、授業展開の具体的な工夫について豊富な経験に基づいた助言が行われ、また山口教諭は、自身の授業で使用しているワークシートなどの教材を提示するとともに、織田信長の統一事業・過程を構成する諸要素間の因果関係を整理した。三品は、歴史学の専門的な見地から日本社会の中世・近世移行期の捉え方について教示するとともに、「南蛮貿易で栄える堺」の図像イメージとしてアニメ『忍たま乱太郎』の「しんべエのパパ」と「クエン・カステラ」を使うことを提案した。こうした検討会での議論と助言を経て作成されたのが、11 月 13 日の研究授業で用いられた指導案②とワークシート（本レポート末尾の資料②）である。

この指導案②とワークシートからわかるように、11 月 13 日の西浦教諭の研究授業は、「長篠合戦図屏風」から織田軍の鉄砲の多さに着目させることを導入とし、「多量の鉄砲を調達するには何が必要か？」という問いを立ててその経済力に注目させ、グループ学習など生徒に主体性を発揮させる方法を用いつつ、当時の日本社会の経済的中心地（京都と堺）を信長が早期に掌握したことと、その経済・商業政策の意義を理解させるという展開になった。これは経済・軍事・政治を因果関係で説明し、織田信長の統一事業が持った歴史的な画期性を生徒に理解させるうえで十分な構成であるといえ、本共同研究事業の目的が一定程度達成されたと評価できるものである。

なお、協議会で指導助言を行った三品は、今回の授業は教科書の単元構成（ルネサンス・大航海時代・銀による世界の一体化・日本社会の近世化）を倒立させた展開になっていたこと、それ自体は問題ないものの、あえて日本社会の近世化を冒頭に持ってくるのであれ

ば、少なくとも大航海と銀による世界の一体化については授業のどこかで説明を入れる必要があったことなどを指摘した。西浦教諭からは、初任者として貴重な経験ができたことに対して謝意が示されるとともに、「問い」の作り方など今後の授業づくりに生かしていきたい旨の回答があった。

また、11月18日に行われたコア・メンバーによる振り返りでは、以下のように課題が確認され、それに対する助言があった。

授業者自身の振り返り（▼）と研究協力者からの助言（◇）

▼指示・問いがあいまいであるために、生徒は何をすればよいのか、何を問われているのかが分かりにくくなっていた。

▼教師自身があいまいに認識している部分が多くあり、説明が抽象的になっていた。

▼せっかく生徒に発言してもらっても、予定している授業の流れが変わるおそれや、どのように拾ってまとめれば良いか分からない不安から、深掘りするのがこわかった。

◇少しずつ授業を生徒に委ねる割合を増やしていこう。どのような指示や問いをすれば、生徒はどう反応をするか授業記録を残し、自己分析して授業改善を続けていくと良い。

## おわりに

以上述べてきたように、本共同研究事業は、初任者である西浦教諭の研究授業づくりに積極的・組織的に関与した。このことは、研究授業を担当した西浦教諭にとって、教科別等研修会で研究授業を実施するという「重い」課題に対し、バックアップするチームが存在したということを意味しており、授業づくりや展開について様々なアドバイスを受けられるという点で利点があった。「織田信長の統一事業」を題材とした授業の構成については、附属中学校の山口教諭から綿密に作り込まれた教材が多く示されたし、生徒たちの背景・環境・学力の差異が大きな公立中学校での授業実践については、明和中学校の赤松教諭や公立中学校での勤務経験の長い和田教諭から豊富な体験に基づく適切なアドバイスが得られた。また教科書に記された歴史像の解釈や、中世と近世それぞれの時代の特徴については、大学で歴史学を専門とする三品が助言を行った。今回の共同研究事業が、それぞれ得意とする分野が異なる附属中学校・公立中学校・大学の三者連携によって遂行されたことが、有効であったと言える。

また、このような取り組みが「次世代」の教員養成に対して持った波及的な効果についても特筆すべきである。本共同研究授業にはコア・メンバーとして辻教諭が加わっており、研究授業とその準備のための検討会や授業後の協議会には、教職を目指す学生が複数名参加していた。辻教諭は西浦教諭と同じ初任者であり、西浦教諭に対して行われたアドバイス・助言は、辻教諭の授業づくりにも役立ったはずである。学生は、現職の教員も授業づくりで悩んでいること、それを支え導こうとする先輩の教員がいること、悩みや課題は深く考え学び実践することで乗り越えていけることを実見した。こうした体験は、彼／彼女たちが教壇に立った時に大きな意味をもつであろう。

このように本共同研究事業は、三者連携という枠組みに加えて幅広い年齢層の人々を巻き込んだことで、大きな成果を挙げることができた。来年度以降も意識的に追求していきたいと考えている。



社会科学習指導案

授業者 和歌山市立紀伊中学校 教諭 西浦 誠

1. 日時 令和6年11月13日(木) 5限 14:15-15:05

2. 学年・学級 和歌山市立紀伊中学校 2年2組

3. 場所 2年2組教室

4. 単元名 第4編 近世の日本と世界 1 中世から近世へ (日本文教出版 pp.112-125)

5. 単元目標 ヨーロッパ人來航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、近世社会の基礎がつくられたことを理解させる。【知識・技能】

交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。また、近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現させる。【思考・判断・表現】

ヨーロッパ人來航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、近世社会の基礎がつくられたことについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

6. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ヨーロッパ人來航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、近世社会の基礎がつくられたことを理解できる。	交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。また、近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現できる。	ヨーロッパ人來航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、近世社会の基礎がつくられたことについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

《資料① 指導案②》

7 指導に当たって

(1) 生徒観

本学級の生徒は、1年時に室町時代までの歴史を学習している。また、小学校において織田信長やランシス＝サビエルについて学習している。地理の学習が終了した段階で実施した歴史的分野についてのアンケートでは、歴史が好きと答える生徒と好きではないと答えた生徒が同数程度に分かれた。好きではないと答えた生徒は、ほとんどが暗記することへの抵抗感から歴史的分野について苦手意識を持っていると答えた。それに対して、好きだと答えた生徒は暗記や人物学習への好感、家族の影響から良い印象を持っていると答えた。以上から歴史的分野が暗記だけではないと考えられるような取り組みを取り入れつつ、重要な部分はどこであるのかということが分かりやすい授業を展開する必要があると考える。

(2) 教材観

本単元は中学校学習指導要領第2章第2節社会第2各分野の目標及び内容(歴史的分野) 2内容B近世までの日本とアジア(3) 近世の日本ア(ア) 世界の動きと統一事業に該当する。  
この単元では、中世から近世に変化していく中で、何が変化したのかということを抑えることが大切になってくると考える。特に織田信長はほかの戦国大名よりも経済力、軍事力を連関させていく中でほかの勢力を圧倒する力を手にしていき、そうなることでさまざまな権力が乱立する世の中を変化させていった。その経済力、軍事力を検討することによって、そうした力が持つ意味を考えさせたい。

(3) 指導観

上記の二つの観点から、本単元では中世から近世への変化に関する資料を読み解くことを通して、何が変化したことで時代が変わったのかをつかませたい。そのために、資料の読み取り方をまず確認する必要がある。教員が資料を提示し、それぞれがどのような意味を持っているのか確認したのちに、生徒自身が自ら資料を読み取る取り組みを実施する。その一方で、生徒が読み取った内容は何を意味するのかや、読み取り整理した内容の何が重要であるのかということについて、生徒とのかやり取りの中で整理することを通して、重要なところがどこであるかを明確にする。そうすることで、歴史的分野は暗記であるということからくる苦手意識や、生徒主体の活動を取り入れることにより要点があいまいになることをなくす。

8. 指導と評価の計画 (全5時間)

時 学習活動	評価規準及び評価方法等
1 【本時】 織田信長はなぜ強いのか、資料を読み解くことを通して考え、説明することができる。【思考・判断・表現】 ・織田信長の経済力はどこから来ているのか、資料から考察する。	資料を基に京都や堺を手に入れたことで信長が経済力を高めたことを読み解くことができる。 (思考・判断・表現)
2 日本に影響を与えたヨーロッパの人々は何をしに日本に来ていたのか考えをまとめることができる。【知識・技能】 ・ヨーロッパの人々がアジアで行っていたことを整理する。	ヨーロッパの人々のアジアでの行動について整理することができる。(知識・技能)
3 ヨーロッパの人たちはなぜアジアを目指すことになったのか資料や情報をもとに理由を考えることができる。【思考・判断・表現】 ・大航海時代が起きる条件について資料や教科書から情報を整理し、考察する。	大航海時代が起きる条件について資料や教科書から情報を整理し、考察することができる。 (思考・判断・表現)

4	世界から影響を受けて日本はどう変化したか、今後どうなっていくかを秀吉の政策を中心に考えようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 ・世界の影響がどのように日本を変化させたのかを整理し、その後の日本がどうなったのか予想する。	世界の影響をうけて変化した日本が、その後どうなったのか秀吉の政策を中心に予想しようとし、取り組める。(主体的に学習に取り組む態度)
5	信長や秀吉の統一事業を背景に、文化の担い手が中世とは異なることを知り、桃山文化の特徴を理解することができる。 【知識・技能】 ・桃山文化の特徴について理解する。	文化を建築、絵画、工芸、芸能などの分野別に整理してとらえ、大名や豪商などの町衆たちに支えられた文化であることを理解している。(知識・技能)

9. 本時の目標  
織田信長はなぜ強いのか、資料を読み解くことを通して考え、説明することができる。【思考・判断・表現】

10. 本時の評価規準

評価の段階	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A		資料を基に信長の強さが経済力と軍事力が関係しあって成立していることを書くことができる。	
B		資料を基に信長の強さに経済力と軍事力が大きく影響していることを書くことができる。	
C		資料を基に信長の強さに経済力と軍事力が大きく影響していることを書くことができない。 ⇒次回の導入前に書いている生徒の振り返りをもとに本時の確認を行う。	

3

# 11. 本時の展開

学習活動・指示・時間	生徒の反応	支援・評価・準備物
導入 ② 3分	信長の領土の変化をみせる。 「なぜ信長は強かったのだろうか？」 めあて：なぜ信長は強いのか説明できるようになるう！」	「賢かったから」 「鉄砲使ったから」 ・スライド ・プリント
展開 ① 5分	長篠合戦図屏風を提示する 「何の戦い？」 「どんな戦いだったか覚えていますか？」 「鉄砲はどれくらいあるのだろうか？数えてみましょう。」 「実は武田も鉄砲を持っていました。」 ・織田家と武田家の違いについて資料①、資料②、長篠合戦図屏風から教員とともに読み解く。 「鉄砲の違いはみんな知っていたと思いますが、ほかになんの違いがあったのか違いを探しましょう。」 「まず、戦い方はどう違う？資料③を見てみましょう。」	「関ヶ原」 「長篠」 「鉄砲使った。」 「馬で戦った。」 「いっぱいあった」 「集団で集まっているのと一撃打ちするのに分かれてる。」 「織田家は従わない仏教勢力を弾圧して従わせた。武田家は出家して仏教徒つながりが深かった。」 ・長篠合戦図屏風カード
展開 ② 10分	「戦い方は分かりました。では、宗教との関係はどう違いますか？」 ・織田信長がどのようにして鉄砲を入手していたのか資料③④を読み取る。 「違いは分かりましたが、そもそも鉄砲ってどうやって確保したのでしょ？買った、買った、どっちでしょう？」 「どのように手に入れたのか資料③④の二つからわかることは何でしょう？」	「信長は国友に鉄砲を頼んでいた。」 「鉄砲が盛んな堺や国友を支配していた。」 「長篠の戦いでタイの船を使った鉄砲王が使われていた。」 「貿易を通して弾丸を手に入れていた。」 貿易の話が出なかった場合は南蛮貿易において火薬・弾丸を入手していたと追加説明する。

4

<p>展開 ③ 22 分</p> <p>・織田信長の経済力はどこから来ているのか資料⑤⑥から考える。(個人) (7分)</p> <p>「鉄砲の入手方法は分かりましたが、それを調達するだけのお金はどこから出てきたのでしょうか？信長のお金を手に入れる力はどこにあったのだろうか？資料を読んで、その力をどこから手に入れていたのか考えよう！」</p>	<p>「京都や堺のような商業の中心地を手に入れることで大量の収入を得た。」</p> <p>「楽市令を出して安土城に人を集めて収入を得た。」</p> <p>「関所を廃止して、経済の周りをよくすることで、収入を増やした。」</p>	<p>★二つの資料を基に京都や堺を手に入れることで信長が経済力を高めたことを読み解くことができる。(思考・判断・表現)</p>
<p>・それぞれ読み取った内容をもとに班で共有する。(5分)</p> <p>「それぞれ読み取った内容を班で共有しよう！」</p> <p>・指名された班の代表者が書いたホワイトボードについて説明する。(5分)</p> <p>「信長の経済力はどこから来ているのか各班の意見を教えてください！」</p> <p>・楽市令や関所を廃止した効果について資料をもとに教員が解説し、まとめる。(5分)</p>	<p>「楽市令を出して安土城に人を集めて収入を得た。」</p> <p>「関所を廃止して、経済の周りをよくすることで、収入を増やした。」</p> <p>⇒経済活性化</p>	<p>・共有が終わった場合にはほかに読み取ることができないか読み取るよう促す。</p> <p>・机間指導するなかで指名し、ホワイトボードにまとめさせる。</p>
<p>まとめ 10 分</p> <p>それぞれの力がどう関係しているか整理する。(5分)</p> <p>「それぞれの力はどの関係しているだろうか？」</p> <p>なぜ信長は強いのか？ その強さを二つの力に注目して書かせる。(5分)</p>	<p>「戦いに勝利することで、領土を手に入れ経済力が高まる。その経済力を使って鉄砲を手に入れ軍事力を持つことができる。そこからまた領土を手に入れることにつながり経済力が高まる。これがこの二つの力が影響しあって信長は強くになった。」</p>	<p>見てほしい点：①めあてとまとめ・振り返りの一貫性 ②目標としていることが本授業を通してできるようになっているか。できているのはなぜか。</p>

## 《資料② ワークシート》

2年社会科 歴史的分野 第4編 教科書 p.116～117 2年 組 番 名前：

めあて：なぜ信長は強いのか説明できるようにしよう！

④関所を廃止したり、楽市令を出したりことによってどんな効果があったのか資料⑦⑧から考えよう！

**信長の領土の変化**

尾張半分 → 尾張、美濃、信濃、甲斐、伊勢、近江、越前、加賀、越中、若狹、山城、大和、伊賀、紀伊、摂津、和泉、河内、淡路、播磨、丹波、丹後、因幡、備前

石高 30 万石 ⇒ 787 万石 約 ( ) 倍

①領地拡大

- ・年貢の獲得量増加！
- ・兵士の数が増える！

②軍事力 鉄砲

どのようにして手に入れた？

奪った・買った

資料③④の二つから信長は鉄砲をどのようにして入手していたと言えますか？

③信長の経済力の源は？

どこから来ているのか資料⑤⑥から言えることは何でしょう？

⑤ふりかえり

なぜ信長は強いのか、二つの力に注目して説明しよう！

西暦	できごと	手に入れた領土
1560	桶狭間の戦いで勝利する。	東海地方
1568	上洛(京都に入る)	近江、越前
1569	堺を支配下に入れる。	畿内
1570	比叡山 浅井・朝倉 一向一揆	安土城をつくる
1573	宣明幕府 15 代将軍足利義昭追放	
1575	長篠の戦いで武田軍に勝利する。	
1576		
1579	武田を滅ぼす。	甲斐、信濃
1582	本能寺の変【信長死す】	